

伝音 セミナー

日本の
希少音楽資源
にふれる

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めてという方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

申込不要
参加無料

定員 > 各回につき先着 50名
時間 > 各回とも
午後2時40分~4時10分

第6回
2019年
10月3日
木
午後2時40分
~4時10分

近代日本の「医」と「音楽」

講師： 発表者 | 光平 有希
(国際日本文化研究センター機関研究員)

コーディネーター | 武内 恵美子
(日本伝統音楽研究センター准教授)

第7回
2019年
11月7日
木
午後2時40分
~4時10分

「琉球」の音色を聴く 王朝時代と現代の三線弾き聴き比べ

講師： 遠藤 美奈 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

ゲスト： 三線職人 仲嶺 幹
(沖縄県三線製作事業協同組合事務局長)

三線奏者 喜納 吏一 (野村流音楽協会師範)

第8回
2019年
12月5日
木
午後2時40分
~4時10分

能《羽衣》の楽譜

講師： 藤田 隆則
(日本伝統音楽研究センター教授)

第9回
2020年
1月9日
木
午後2時40分
~4時10分

三味線音楽の イントロダクション

講師： 細野 桜子 (新内志賀桜)
(日本伝統音楽研究センター共同研究員)

竹内 有一 (常磐津若音太夫)
(日本伝統音楽研究センター教授)

第10回
2020年
2月6日
木
午後2時40分
~4時10分

近世の雅楽譜を 見る・聴く

講師： 出口 実紀
(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

第11回
2020年
3月5日
木
午後2時40分
~4時10分

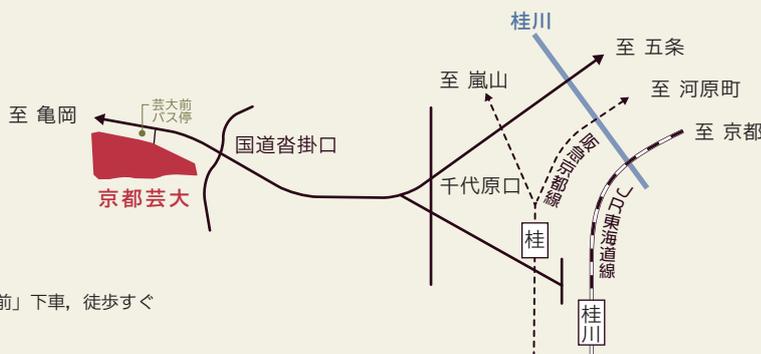
京都のうた その6 聴く都をどり

講師： 大西 秀紀
(日本伝統音楽研究センター客員研究員)

会場

京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター
合同研究室1 (新研究棟7階)
京都市西京区大枝沓掛町13-6

- 阪急桂駅東口バス停より
京阪京都交通バス1・2・13・14・25・28系統乗車約20分、「芸大前」下車、徒歩すぐ
 - JR京都駅【C2のりば】より
京阪京都交通バス2・14・28系統に乗車、「芸大前」(約45分)下車、徒歩すぐ
- * 運行時刻, その他交通機関についての詳細情報は, 各社のホームページをご確認ください。



第6回 2019年10月3日(木)
午後2時40分～4時10分

近代日本の「医」と「音楽」

発表者：光平 有希（国際日本文化研究センター機関研究員）
コーディネーター：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

治療に音楽を用いる、いわゆる音楽療法の実践が日本で花開いたのは明治時代。前近代より根付いていた東洋の身体・音楽観を発展させつつ、近代日本医療では音楽療法が積極的に導入されていきました。今より格段に医療技術が未発達な明治～昭和初期の病院。そこで、医学や病と対峙する医療従事者は音楽に何を求め、どんな音楽が闘病生活を送る患者に寄り添ったのでしょうか。当時の病院で実際に用いられた音源や再現演奏を交えつつ、御紹介していきたいと思えます。

第7回 2019年11月7日(木)
午後2時40分～4時10分

「琉球」の音色を聴く

講師：遠藤 美奈（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）
ゲスト：三線職人 仲嶺 幹（沖縄県三線製作事業協同組合事務局長）
三線奏者 喜納 吏一（野村流音楽協会師範）

沖縄の音楽文化を支えてきた三線。その形状はほとんど変化していないように見えますが、戦後、愛好者の裾野が広がるにつれ、音色は大きく変化してきました。セミナーでは、現代の職人が王朝時代に江戸へ献上された三線の再現に取り組む過程で見えてきた、楽器の構造や音の移り変わりに注目しながら、職人と実演家を交えて三線音楽の歴史を紐解いていきます。また現代の三線を聞き弾き比べしながら、その味わいと魅力に迫ります。

第8回 2019年12月5日(木)
午後2時40分～4時10分

能《羽衣》の楽譜

講師：藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

日本の伝統音楽は、先生と学習者が一対一の対面による伝授を中心にして受け継がれていますが、視覚的な補助教材（楽譜）も、必要不可欠なものとして発展してきました。現在、能の音楽の教材化においては、どのような楽譜が必要なのでしょう。能楽《羽衣》を例にして、理想的なかたちを模索します。

第9回 2020年1月9日(木)
午後2時40分～4時10分

三味線音楽のイントロダクション

講師：竹内 有一（常磐津若音太夫）（日本伝統音楽研究センター教授）
講師 細野 桜子（新内志賀桜）（日本伝統音楽研究センター共同研究員）

楽曲の導入部分（イントロダクション）はしばしば、その楽曲の内容を端的にあらわし、聴衆を作品空間へといざないます。京都の宮古路豊後掾（みやこじぶんのじょう）にルーツを持つ浄瑠璃に親しむ2人の観点から、その諸相をながめ、実演も交えて楽しんでみたいと思えます。

第10回 2020年2月6日(木)
午後2時40分～4時10分

近世の雅楽譜を見る・聴く

講師：出口 実紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

雅楽の楽譜は、楽人をはじめとする様々な人の手によって書写されてきました。中でも、近世には数多くの楽譜が記され、現在まで残っています。今回のセミナーでは、唱歌の記譜やその系統を探るとともに、近世に書写された雅楽譜の特徴を見ていきたいと思えます。

第11回 2020年3月5日(木)
午後2時40分～4時10分

京都のうた その6 聴く都をどり

講師：大西秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

明治5年に始まり今もなお続く都をどりは、京の春を彩る華やかなイベントです。今回は大正4年「今様ゆかりの四季」から、戦前・戦中を経て昭和31年「極彩色近松絵巻」にいたる数々の録音を取り上げ、みなさまを「聴く都をどり」の世界へ御案内します。

予告

でんおん
連続講座
〈開催予定〉

D

常磐津節実践入門(その10)

講師：竹内 有一（常磐津若音太夫）（日本伝統音楽研究センター教授）

E

京都の琴(その8)

講師：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

日程等詳細は、
本学HP及び
別途チラシにて
お知らせします。